

公共事業環境配慮書

農政部 農地整備課

事業名称		
事業名	県営農村地域防災減災事業	
整理番号	31-10	
事業の種類	ため池の改修	
市町村名	中野市	
箇所名	永田地区(中野市大字永江)	
事業年度	平成29年度～令和3年度(2021年度)	
事業概要		
目的	平成27年度に堤体耐震診断を行った結果、堤体上下流側法面で地震時における所定の安全度が確保できないため、施設の耐震化工事を行う。	
計画概要(延長・幅員・面積・工種など)	堤体押え盛土工L=116m 緊急放流施設N=1箇所	
関連する事業計画	中野市農村地域防災減災推進計画	
その他特記事項	特になし	
関係法令等の規制		
自然環境保全地域等の指定状況	なし	
土地利用規制の状況	農業振興地域の整備に関する法律	
その他	なし	
社会的要素	留意すべき地域の概況	
交通の現況	事業区域の東側に市道が位置する 下流にJR線がある	
土地利用の現況	山地・丘陵である	
生活関連施設の現況	周辺に住居はない	
その他	特になし	
自然的環境要素	環境配慮の方針	
大気環境	留意すべき地域の概況	特になし
	【大気汚染の防止】	
	・資材等の運搬ルートは、居住系地域内の走行はできるだけ避ける。	
	・土砂表層の散水や道路の散水、車両や機械の清掃等を行い、粉じんの飛散を防止する。 ・排出ガス対策型の車両や機械を使用する。	
水環境	【騒音・振動の防止】	
	・夜間・早朝の資材運搬及び機械の稼働をできるだけ避ける。	
	・低騒音・低振動型の建設機械を使用する。	
	留意すべき地域の概況	
地形・地質	【水質汚濁の防止】	
	・上流からの流入水は仮廻しを行い、濁水の排水を避ける。	
	・沈砂池・沈澱池や濁水処理装置等を設置し、濁水や油脂類の排水を避ける。	
	【水循環の保全】	
・上流からの流入水は仮廻しを行い、受益地への用水を確保する。		
留意すべき地域の概況		丘陵である 凝灰岩である
【改変面積の最小化】		
・既存施設の補修・改修を主体とし、新たに施設を設置することは避ける。		
・堤体の押え盛土工は、必要最小断面とする。		

野生動植物	留意すべき地域の概況	中野市田園環境整備マスタープランにおける環境配慮区域である。
	【野生動植物の生息・生育空間の保全】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ため池落水時には、魚類等を隣接するため池へ一時移転し保全を図る。また、特定外来魚を確認した場合は、できるだけ駆除し、下流域に流出しないよう努めます。 ・工事機械を搬入する際に、機体の汚れがないか確認し、外来植物が侵入しないように留意する。 	
景観	留意すべき地域の概況	湖沼景観を形成している
	【すぐれた景観の保全】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・工事箇所の整理整頓・美化に努め、仮施設や資材置き場は目立ちにくい配置にする。 	
廃棄物・建設残土	【良好な景観の育成】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木の伐採はできるだけ避けるか、又は植樹等による緑化に努める。 	
	【建設廃棄物や建設残土の発生抑制】	
省資源・省エネルギー・温室効果ガス	<ul style="list-style-type: none"> ・建設廃棄物や建設残土の適正処理を行う。 	
	【建設廃棄物や建設残土のリサイクル】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・現場発生材の原位置リサイクル等、建設廃棄物や建設残土のリサイクルを推進する。 	
省資源・省エネルギー・温室効果ガス	【資源の有効利用】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・再生As合材、再生骨材、木材チップ、建設汚泥改良土等再生資材の利用に努める。 	
	【環境への負荷の少ない機械の利用等】	
省資源・省エネルギー・温室効果ガス	<ul style="list-style-type: none"> ・低燃費型建設機械や省エネ機構搭載型建設機械を積極的に使用する。 ・アイドルストップ、エンジン回転数の抑制等機械の省エネ運転に努める。 ・点検整備を行い、適正な燃費消費率を維持する。 	

番号	項目	環境部長の意見内容	事業部局の見解
1	野生動植物	ため池落水時に捕獲された特定外来生物(ブラックバス、ブルーギル、ウシガエル)については、できる限り殺処分するよう努めてください。	特定外来生物の生息を確認した場合は、できるだけ殺処分し、下流域に流出しないようにします。